

関西発仕事コンソーシアム ～やってみなはれ～

勉強会のお誘い(日本一明るい経済新聞)

日本一明るい経済新聞の竹原です。いつもいろいろとお世話になり、ありがとうございます。今回、突然ご連絡させていただいたのは、経営者のためにお役に立てる勉強会を発足しようと考えたからです。

名付けて「**関西発仕事コンソーシアム ～やってみなはれ勉強会～**」といいます。

先日、取材しました小林大阪大学名誉教授。今も大阪大学で教鞭を執りながら、民間企業とも積極的にコラボレーションし、商品化、事業化に貢献されています。

また、大阪梅田の一等地大阪富国生命ビルの4階では、小林教授の発案で大学、企業、市民が集まったまちラボが運営されています。アイデア、発想力に優れ、教授でありながら事業化の達人でもあり、学内に研究開発バックヤードを所有する、まさにスーパーマンです。

この小林先生のパワーと大阪大学や大手企業のネットワークを活用させていただき、関西の元気づくりにつなげたいと思います。これまで取材でお世話になった企業様の中から、ボクの独断と偏見で選ばせていただきました。

会員20人程度の少人数で運営。小林教授、時にはゲストスピーカーをお呼びしてお話をお聞きする一方、会員皆様と相互にディスカッションし、新商品開発、新規事業化など幅広いテーマでお話いただき、皆様の経営にお役に立つことを目的にしています。

ぜひ、ご参加いただき、やってみなはれ！精神で関西を盛り上げたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。

★運営／日本一明るい経済新聞・竹原編集長
代表世話人は、幸南食糧(株)川西会長予定

□□□□□□□□□□□□□□□□ 会員募集要項 □□□□□□□□□□□□□□□□

- ◎ 年 会 費 12万円(年額一括支払)
- ◎ 毎月の勉強会参加費 5千円(当日受付にてお支払い)
- ◎ 募 集 会 員 20社程度
- ◎ セ ミ ナ ー 開 催 各月第3週水曜日14:00～18:00
- ◎ 場 所 大阪富国生命ビル4階会議室(大阪市北区小松原町2-4)
- ◎ お 問 い 合 わ せ 関西発・仕事コンソーシアム事務局
〒550-0004 大阪市西区靱本町1-16-7
TEL 06-6445-7045 FAX 06-6445-7406
E-Mail ijj-take@nifty.com
(竹原・伊藤)

FAX: 06-6445-7406 (いずれかにマルをつけてください)

締め切り H27年1月20日(火)

参加します

参加しません

会社名

お役職

ご氏名

「青い薔薇」や「杜仲茶」を事業化した大阪大学の名物教授
小林昭雄先生と新しい仕事を一緒に考えよう

関西発



仕事コンソーシアム

～やってみなはれ勉強会～

▶ 小林昭雄先生

◆小林先生は、現在、大阪大学名誉教授・招聘教授・プロジェクト教授ですが、大学内での狭い研究にとどまらず、企業と共に製品開発を進め、その商品化・事業化の実現までも手がけられる稀有の研究者です。

◆2000年、日本初の遺伝子組換え植物「青い薔薇」を市場に投入するため、遺伝子組換え植物評価システム(グリーンゴールドバイオシステム社)を産官学の支援を得て確立(設立)し、サントリー青いバラを消費者が手に取り購入できる、未来へ夢を繋ぐ初の道筋をつけられました。

また、2002年以来、杜仲茶を開発した日立造船と共同で、杜仲木よりゴム生産を国費プロジェクトとして進めており、中国現地にゴム生産工場を開設されました。

その他、高齢者福祉工学分野にも関心を示され、英国エイジコンサーン協会(ACE)日本支部設立時のキーパーソンとして活躍されると共に、植物工学の専門家として植物工場設立にも関わっておられます。

そして、国際人としても、その活躍は広く知られており、英国通、中国通、韓国通として万人の認める御仁であります。

略歴

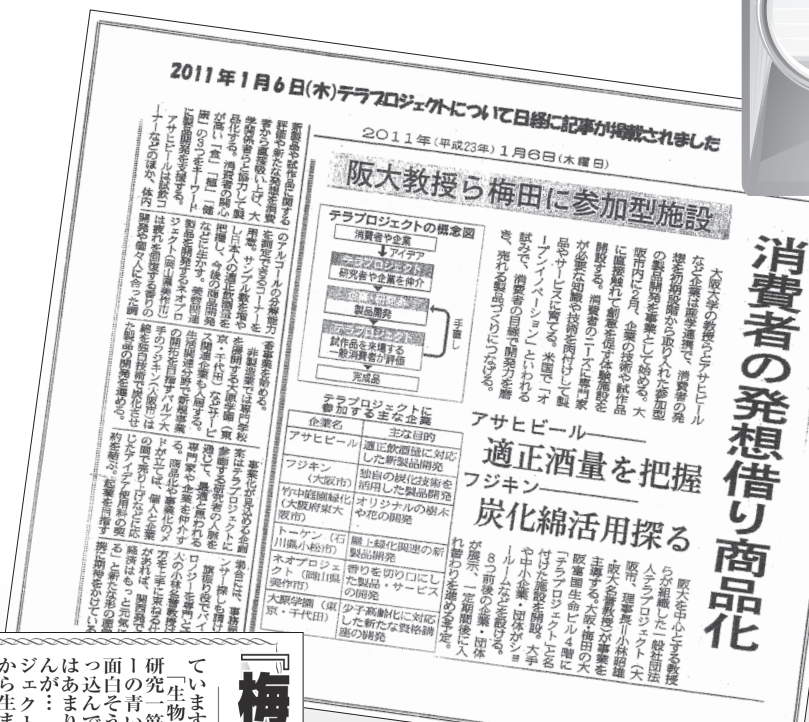


小林昭雄

(大阪大学名誉教授、
一般社団法人テラプロジェクト理事長)

京都大学農学部農芸化学科卒 京都大学大学院農学研究科博士課程修了。米国ミシガン州立大学、ロードアイランド州立大学 博士研究員。大阪大学大学院工学研究科(応用生物工学)教授。大阪大学サステナビリティ・サイエンス機構特任教授

会場は、大阪梅田の大阪富国生命ビル 4 階(大阪市北区小松原町 2-4)で、都心の会議室に集まり、半日、小林先生を囲んで関西発の新ビジネスを考えます。



月2日、日経産業新聞17面に記事が掲載されました。

V B 支援のキーパーソン

テラプロジェクト理事長 小林 昭雄氏



2月1日、大阪大学の教授らで組織する一般社団法人「テラプロジェクト」が大阪市内に新たな産学連携活動の支援施設を開設した。消費者にアイデアを吸い上げ、製品化に必要な技術や知識をもつ企業や研究者を同法人が橋渡しする。仕組みや狙いについて、理事長を務める小林昭雄・阪大名誉教授に聞いた。

消費を密に
費開体支

消費者のアイデア発掘

おけい民め

脈を通じて全国の大学や研究機関から「最適と思われる人材や企業を紹介する。事業立ち上げの際に、スポンサーを探したりもする」との違ひは、

――従来の産学連携支援（製品開発に外部の知恵を活用するオープンイノベーション）を推し進めるたし、

――企業や大学に加え、市民を巻き込む点だ。テラとの取引言葉に「という意味も含け込み寺」という意味もにむく。優秀な人材は至る所にいても動機先の仕事もない。ユニークな構想を思いついても、目の目を見ずに終わる。市井で眠る起業家精神を掘り起す。市民と研究者、企業をうまく束ねた仕組みをつくり、日本の競争力を高めた」と

「例えは、日々の開発業務は博士号を取ったが就職先がない。携わった案件が事業にたつた、そのまゝ雇

梅田から元気を発信！

ていますね。――多彩な活動をされてますね。

「生物工学の出身ですが、研究一筋でなく、サントリイの青いバラの事業化など面白そうなものには首を突っ込んで来ました。大学ではあまり評価されていません」

オフィスにそつた金らつてた大学、自治大、人役を果たしたいと思つています」



一般社団法人テラプロジェクト理事長
大阪大学名誉教授・特任教授
小林 昭雄さん

「この施設は人に替へて、
木、小脳がテラ、
筋肉が企業や自治
体、細胞が一般市民

運営を任せました。設計・建設工事中から関わり、思い通りの施設をつくれました」

——どのような施設です？

「常設ブースには、企業が食・植・健康をテーマに展示

トが。――ほかにプロジェク
「そう、智の木協会」が
あります。法人が個々にシ
ンボルの樹花を選定し、そ
れを暮らしに活かす活動を
支援する組織です。10月か
らは個人会員の「智の木ク

312・3407
▽事業内容＝消費者と企業、企業と大学、大学と消費者を結び、より身近に社会へ情報発信する産学連携活動支援施設「LIFE TREE TOWN」(まちラボ)を運営する。